

## 年間第3主日の説教

金 大烈 神父 2010年1月24日(日)

### 《教会へ入る時の心構えについて》

おはようございます。

10年以上前のある日、私は田舎の教会を訪ねることがありました。なんとかその教会にたどり着いたのですが、そこは田舎風のきれいな教会でした。その教会の入り口には2本の柱があってその柱の真ん中の鉄板にラテン語で何か言葉が刻まれていました。そのラテン語は三つの簡単な文章でした。その文章の下に聖アルフォンソという名前が刻まれていました。アルフォンソという聖人は3人いますが、どちらのアルフォンソかはわかりません。そこに書いてある文章がきれいな言葉だなあと思って今でも記憶に残っています。日本語に訳してみました。1. 欠けたところのない完全な心で入りなさい。2. 一人で留まりなさい。3. 変わって帰りなさい。

その言葉が目にとまったときに、これはある意味で教会に対して、持つべき心構えだなと思いました。昔は教会に行くとき歩いていきましたね。歩きながら門を通ったのですが、今はほとんどの人が車でスーッとすぎてしまうので、教会に入る前の心がまえをする余裕がないと思います。とにかく教会に入る前にこのような文章(と言ってもラテン語はわからないと思うんですが、その司祭たちは必ず信者の方々に説明したと思いますから)を読んだ人たちは心構えができたんじゃないでしょうか。

一番目の「欠けたところのない完全な心で入りなさい」、どうゆう意味でしょうか? この言葉について私も長い間黙想してきたんですけども、この文章の中には二つの意味が込められているんじゃないかと思います。ひとつは、私たちは良いこと悲しいこと気持ちよいこと悩んでいること・・・等、沢山の心を持って教会に行きますね。そういう全ての心を持って教会に入りなさいという意味だと思います。ということは 意向 を持って、何を望むかをはっきりわかって、教会に入りなさいという意味だと思います。私たちは身体だけ教会に行きミサに与っているときもあると思います。しかし、意識して今の心の状態をそのまま持って入って下さい。強い願い、意向を持って入りなさいという意味でしょう。もうひとつは感謝です。その意向がかなえられるためには、何より基本的な姿勢は感謝の心です。ここに来れば救われるという強い信仰によって生じた感謝の心、その心があればなぜ教会に行っているのかがはっきりわかると思います。欠けたところのない、心を込めてその教会に入ってください、ということでしょう。

二番目は何でしたか? 「一人で留まりなさい」ミサだけでなくいろいろな集まりのために聖堂に入る場合があります。いろんな人々に気を奪われることが結構あります。しかし、この聖堂の優先的な目的は神と私との1対1の対話です。もちろん共に過ごすこともあります。隣に誰がいても人のことによって神様に向かう心を失わないように、「一人で留まりなさい」ということでしょう。霊的に進むためには、このことが必要だということです。私たちはいろんなところがうるさいです。身体もうるさい。心もうるさい。まず身体、祈る姿勢も大事です。すべてが心にも影響します。心がうるさいと集中できません。ですから一人で留まりなさいということは、御聖体のイエス様に集中してあなた

の心を全て見せなさいということ。見せなくてもイエス様はご存知でしょう。しかし、ご存知であることを私たちがわかるためには、一人で留まる気持ちで準備しなければならないことをおっしゃっているんじゃないかと思います。

三番目は何でしたか？「変わって帰りなさい」教会に来てミサに与ったら必ず得たものが必ずあります。変化です。ミサに与って外に出て嫌な人と目を合わせたら嫌な気持ちになるのはとんでもないことです。結局ミサが、空念仏にならないように無駄にならないように、変化した心を持って帰らなければならないということです。つらい気持ちで来たらその気持ちが癒されるまで留まって下さい。これで希望が生じた、何とか立ち上がれる、乗り越えられるそういう希望を持って教会の門を出られるのが自然な姿だと思います。毎日教会に来ていても変化しなかったら、心の変化がなかったら何の意味があるのでしょうか。「変わって帰りなさい」

今日の福音（ルカ 1・1-4、4・14-21）でイエス様は巻物を開いて、イザヤの預言をご自分の使命として話されました。「あなた方が耳にしたときにこのことが実現された」とはっきりおっしゃっています。ということはイエス様に従う私たちは、このような使命感を持って動かなければならないということです。私たちは福音に武装されて外の世界に出るためには、何より私たちがちゃんとイエス様との関係をはっきりして福音化されなければならないと思います。

もう一回思い出してみましょう。1．欠けたところのない完全な心で入りなさい。2．一人で留まりなさい。3．変わって帰りなさい。覚えましょう。これが私たちが教会に入るときの心構えだと思って下さい。

さて、今年に入ってからいろんな方に基本的なことを質問されることがありました。それで要理の勉強を入れたいと思います。子供のときにしたように一つひとつ勉強していきましょう。

カトリックの祈りの手というのがありますよね。祈る手、簡単に「祈り手」といいます。子供たちに「手を合わせなさい」と言いますが、その手の形はこれです。左右の親指を十字に編んで残りの4本の指はまっすぐ伸ばして手のひらを合わせ神様に向きます。私がなぜこんな簡単なことを言うかといいますと、お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんが子供や赤ちゃんたちに、そういう姿を見せて欲しいからです。この簡単な姿勢の中にも全ての信仰が入っています。「私は祈るとき、祈り初めてから終わるまでこの十字架を黙想します。それ以外は全て神様を見ます。」という意味です。私はたまに共同司式（数人の司祭が共にミサを捧げる）をすることがあります。そんなとき、年上の80歳過ぎている司祭がきれいな祈り手をしている姿を見ると、信者の方達にも司祭たちにもその姿が美しく見えます。簡単なことです。正しい身体から正しい心が生じます。今日の要理の勉強でした。

ありがとうございました。